

## 平成 29 年 7 月の解説（週間天気予報）

### 【7月の天候状況】

上旬は、旬のはじめは梅雨前線が日本海に停滞し、暖かく湿った空気が流れ込んだため、東日本日本海側を中心に大雨となり、土砂災害や浸水害などが発生しました。台風第 3 号が、2～3 日に先島諸島に接近し、4 日に長崎県に上陸した後に西日本から東日本へ進んだ影響で、大雨や暴風となったところがありました。旬の後半は西日本へ南下した梅雨前線の活動が活発となったため、5 日の日降水量は福岡県朝倉で 516.0mm、大分県日田で 336.0mm、島根県波佐（はざ）で 320.0mm を観測するなど、5～6 日は西日本日本海側を中心に記録的な大雨となり、土砂災害や河川の氾濫などにより甚大な人的被害が発生しました。北日本は西から暖かい空気が流れ込みやすく、旬の後半は高気圧に覆われて晴れる日が多かったため、北日本の旬平均気温はかなり高く、北日本太平洋側の旬間日照時間はかなり多くなりました。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。

中旬は、北日本に前線がかかる日もありましたが、前線の活動は弱く、晴れた日が多くなりました。東・西日本と沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、東・西日本では寒気を伴った気圧の谷や梅雨前線の影響で雨が降った日もあり、激しい雷雨や突風となったところもありました。九州南部では 13 日ごろ、関東甲信、東海、近畿、中国、四国では 19 日ごろ、九州北部では 20 日ごろに梅雨明けしました（速報値）。北・東・西日本では晴れて日射が強く、また西から暖かい空気が流れ込みやすかったため気温がかなり高くなり、各地で真夏日や猛暑日となりました。

下旬は、梅雨前線が北陸地方から東北地方付近に停滞しやすかったため、旬降水量は東日本日本海側でかなり多く、北日本で多くなりました。23 日には秋田県で雄物川（おものがわ）などが氾濫し、24 日には新潟県佐渡市で記録的な大雨を観測するなど、各地で大雨となりました。九州付近から沖縄・奄美は太平洋高気圧に覆われやすかったため、西日本と沖縄・奄美の旬平均気温はかなり高くなりました。東日本では梅雨前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、東・西日本では大気の状態が不安定となって雷雨となったところがありました。

月平均気温は、北・西日本でかなり高く、東日本と沖縄・奄美で高くなりました。月降水量は、東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側で多かった一方、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なく、北日本太平洋側と西日本日本海側で平年並でした。月間日照時間は、北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側と東日本太平洋側で多く、東日本日本海側と西日本、沖縄・奄美で平年並でした。

### 【7月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値<sup>（注）</sup>より 4 ポイント高い 70%で、東海地方と近畿地方、九州南部地方以外で例年値以上となり、特に北海道地方では例年値よりも 10 ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 2.2 でした。各地方の予報誤差は、北海道地方を除くすべての地方で例年値以下となり、特に東海地方と四国地方では例年値よりも 0.7～0.8 小さくなりました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.4 で、北海道地方と沖縄地方以外で例年を下回り、特に東海地方では例年値よりも 0.6 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【9月の週間天気予報の利用にあたって】

8月に比べて、9月は低気圧や前線が日本付近を通過しやすくなります。低気圧や前線が通過した後は北からの冷たい空気が流れ込むため、晴れても日中の気温は8月ほどには上がり

にくく、夏から秋の気候へ次第に変化します。

また、晴れた日の夜は放射冷却現象により、内陸部を中心に最低気温が下がりやすくなります。このため、日中と夜の気温の差が大きくなります。週間天気予報では、向こう一週間の最高気温と最低気温の予報を行っていますので、日毎の温度変化とともに、一日の間での気温差も確認して体調管理等の参考にして下さい。